

実践事例

1 実践の概要

(1) 取り組みのねらい

- ◎ いじめ防止のために、観察、アンケート、教育相談など一般的な指導で済ませるばかりでなく、さらに積極的に工夫や改善を図りながら、その絶無に努める。

(2) 取り組みの内容

- ① 道徳の授業において、全校で共通の資料のもとに授業を行い、アピール文を掲示した。
- ② 「生活に関する調査」を工夫・改善し、授業や指導に生かせるようにした。

(3) 実際の成果

- ① 道徳の授業実践とアピール文の掲示（資料Ⅰ）
 - ・全国で「いじめ」がクローズアップされる中、タイムリーに指導を行うことができた。
 - ・「全校集会 ～ 学級で道徳の実施 ～ アピール文の作成と掲示」という、全校共通の流れにより、全校生徒と全職員が、いじめのない学校・学級づくりへ向けての意識づけがなされた。
 - ・指導案や資料も共通で、軽いタッチの資料で導入し、現実味のある資料で展開し、アピール文でまとめる流れで、いじめについて深く考え、実践しようとする意欲に結び付いた。
- ② 「生活に関する調査」を工夫・改善し、授業や指導に生かせるようにした。（資料Ⅱ）
 - ・いじめやいたずらの有無を把握するだけでなく、いじめが実際にあった場合取るべき行動と実際にとってしまう行動とのギャップについて把握することができた。また、そのデータをもとに、「勇気をもって行動すること」「最低限取るべき行動」などについて指導を進めることができた。

(4) 取り組みの評価と今後の取り組み

- ・小規模校であるので、いじめについては、日常の観察や生徒指導委員会の情報交換の中で、他校よりも十分に把握することができている。しかし、見えない部分もあるのでアンケートや教育相談などにより補っていきたい。
- ・本校では、1. 2学期に「教育相談」、2. 3学期に「生活（いじめを含む）に関する調査」を実施している。昨年2学期もいじめが全国的にクローズアップされ、通達や諸調査が来る前に、定期的な調査を実施し実態把握がなされていた。何か事があったりしてからではなく、定期的・計画的な調査や教育相談に今後も努めていきたい。
- ・いじめの指導は、一部に任せるのではなく、生徒指導主任や道徳主任、生徒会担当などがタイアップしながら、価値観や指導資料等を共有しながら、学校全体として取り組むことができれば、さらなる効果が期待できると考える。

〈道徳略案〉

- (1) ねらい
- ・「いじめ」の構造を理解する
 - ・自分の行動を振り返り、いじめにつながる行動が日頃の生活の中に潜在することを理解する。
 - ・他人を思いやる心を育て、24人みんなが楽しくできる学校生活は、24人でつくるのが大切であることをわかる。

(2) 指導過程

段階	学習内容	時間	指導上の留意点
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会での先生の話聞き、感想を発表させる。 ・「世界がもし100人の村だったら」を紹介する。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」による自殺が全国で広がっている。 ・いじめを、「しない・させない・見逃さない」許さない気持ちを持たせたい。 ・本は、始め黙読させ、教師が朗読することで理解を深めさせる。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・発問1 「作者はこの本で何を言いたかったか」 ・発問2 中に当てはめて考えると、どんなことが言えるか。 	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の幸せしか考えない人間が多くなってきていることへの忠告。 ・一人でなく、みんなが協力して生きていくことが本来の人間のありようであること。 ・一人一人が違っていることを認め合うことの大切さ。
終末	<p>みんなが満足する 中にするために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」についてのアピール文を考えさせる。 ・アピール文を発表させ自分の考えと比較させる。 	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活を送っている中を100人の村に置きかけ、どうしたらいじめのない学校をつくれるか、一人一人に考えさせる。 ・24人のアピール文を掲示することで、学校全体の取り組みにすることを補足説明する。

ストップ・ザ・いじめ

しない・させない・見逃さない

年 氏名

